

# 家庭の社会経済的背景と学力格差 不利な環境を克服する学校の取組

文部科学省委託研究「平成25年度全国学力・学習状況調査（きめ細かい調査）の結果を活用した学力に影響を与える要因分析に関する調査研究」から

本研究は、平成25年度全国学力・学習状況調査の追加調査として実施した「保護者に対する調査」の結果等を活用し、家庭状況と学力の関係、不利な環境にも関わらず成果を上げている学校や児童生徒の取組を分析するものである。

保護者に対する調査の結果を用い、家庭状況と学力の関係をナショナル・サンプルによって分析した研究は、文部科学省として初。

\* 文部科学省の委託により国立大学法人お茶の水女子大学が分析

子どもの貧困対策に関する検討会 提出資料

平成26年5月1日

国立大学法人お茶の水女子大学

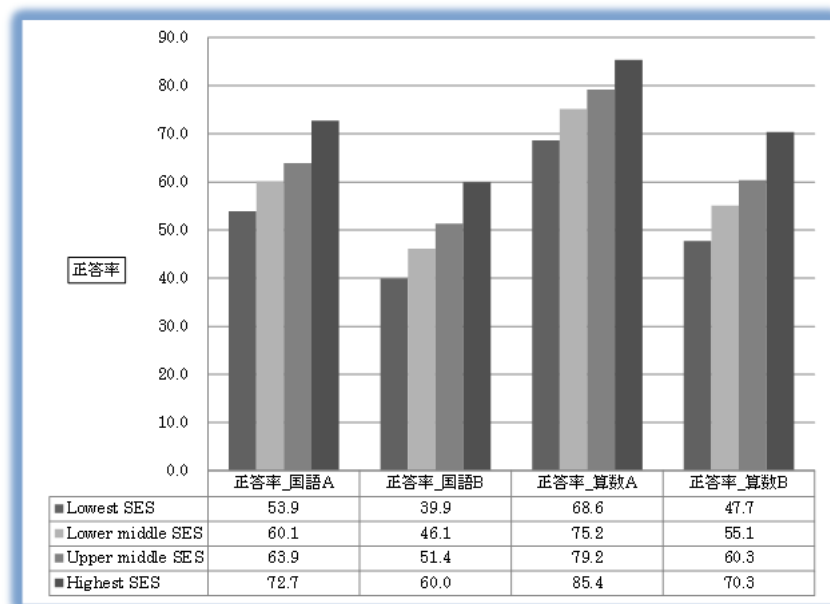
理事・副学長(教授) 耳塚寛明

# 1 家庭の社会経済的背景 (SES) と 児童生徒の学力の関係

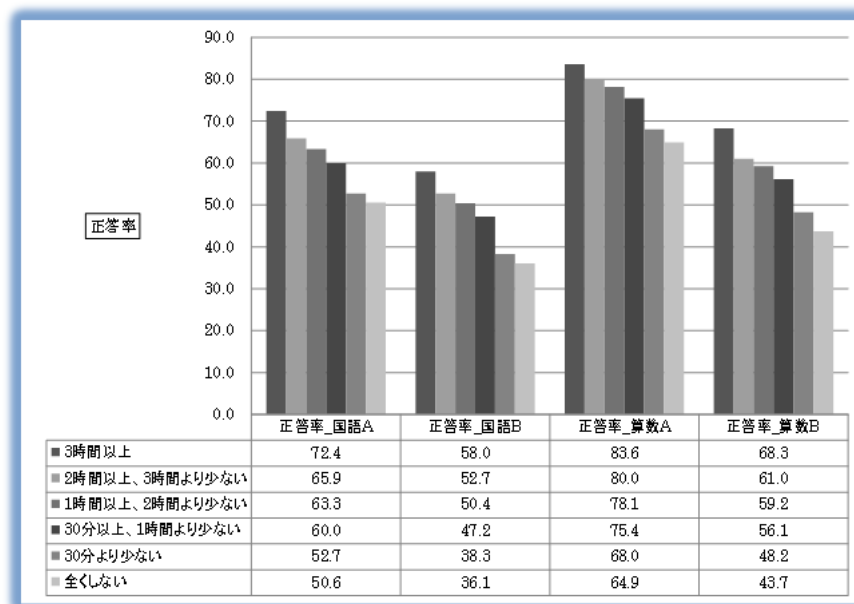
|              | 小6   |      |      |      | 中3   |      |      |      |
|--------------|------|------|------|------|------|------|------|------|
|              | 国語A  | 国語B  | 算数A  | 算数B  | 国語A  | 国語B  | 数学A  | 数学B  |
| Lowest       | 53.9 | 39.9 | 68.6 | 47.7 | 70.7 | 59.8 | 54.4 | 31.5 |
| Lower Middle | 60.1 | 46.1 | 75.2 | 55.1 | 75.2 | 66.0 | 62.0 | 38.8 |
| Upper Middle | 63.9 | 51.4 | 79.2 | 60.3 | 78.6 | 70.3 | 67.5 | 44.9 |
| Highest      | 72.7 | 60.0 | 85.4 | 70.3 | 83.6 | 76.7 | 75.5 | 55.4 |

- 家庭の社会経済的背景(SES)が高い児童生徒のほうが、各教科の平均正答率が高い傾向 →第2章 図表2-1-68
  - 家庭の社会経済的背景 (SES)
    - 保護者に対する調査結果から、家庭所得、父親学歴、母親学歴の三つの変数を合成した指標。当該指標を四等分し、Highest SES、Upper middle SES、Lower middle SES、Lowest SESに分割して分析 →第1章

## 2 努力(学習時間)と学力



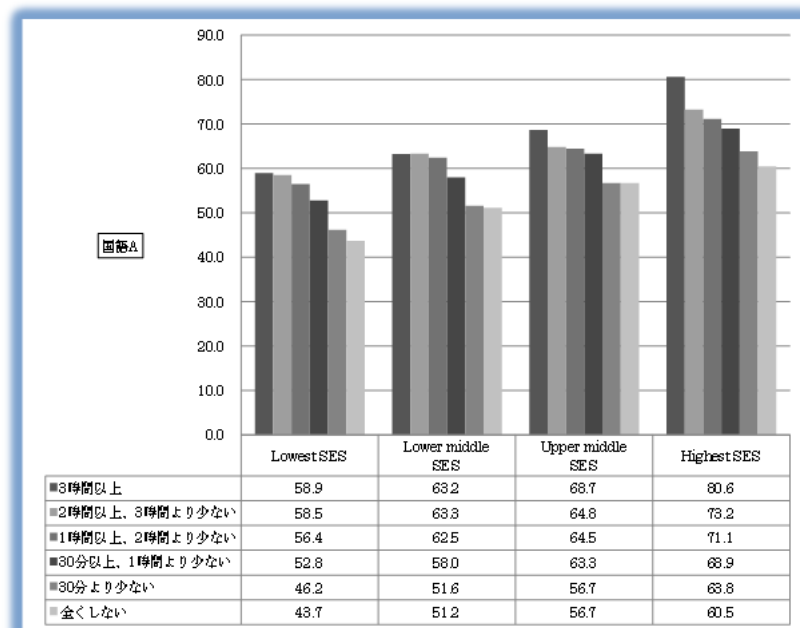
SESと各正答率(小6)



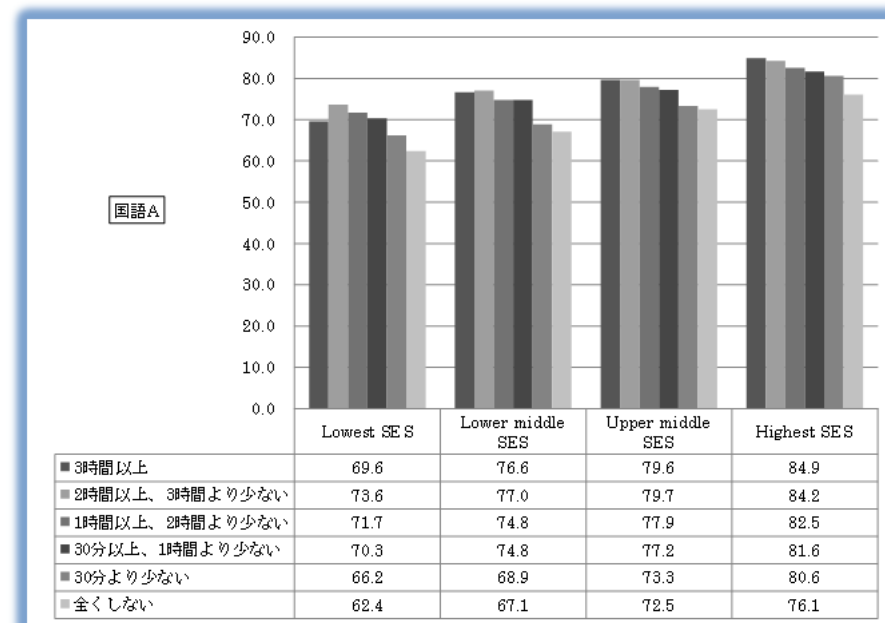
平日の学習時間と各正答率(小6)

- 学力は児童生徒の社会経済的背景および学習時間の量によって規定される。SESが高いほど、また学習時間が長いほど学力が高い →第4章(1) 図表4-1-1~4

## 2 努力(学習時間)と学力(続き)



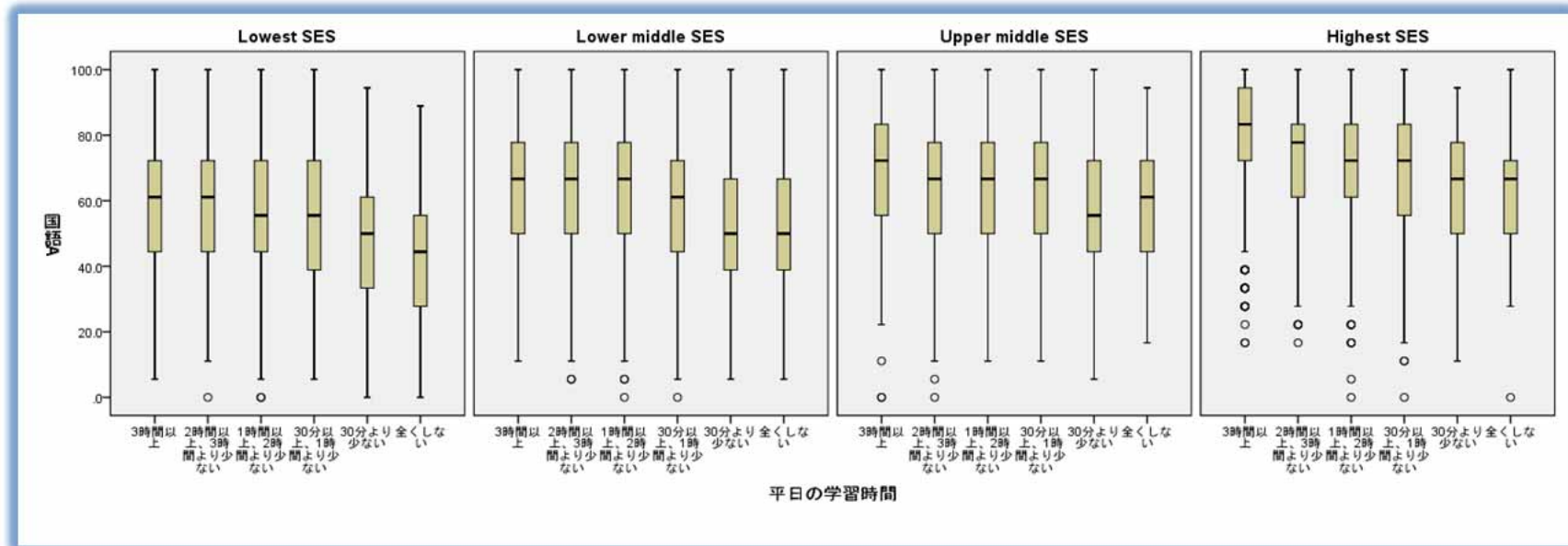
SES別学習時間と平均正答率(小6、国語A)



SES別学習時間と平均正答率(中3、国語A)

- しかし学習時間の効果は限定的。社会経済的背景がLowest SESの児童生徒が「3時間以上」勉強して獲得する学力の平均値は、Highest SESで「全く勉強しない」児童生徒の学力の平均値よりも低い → 第4章(1) 図表4-1-5~12

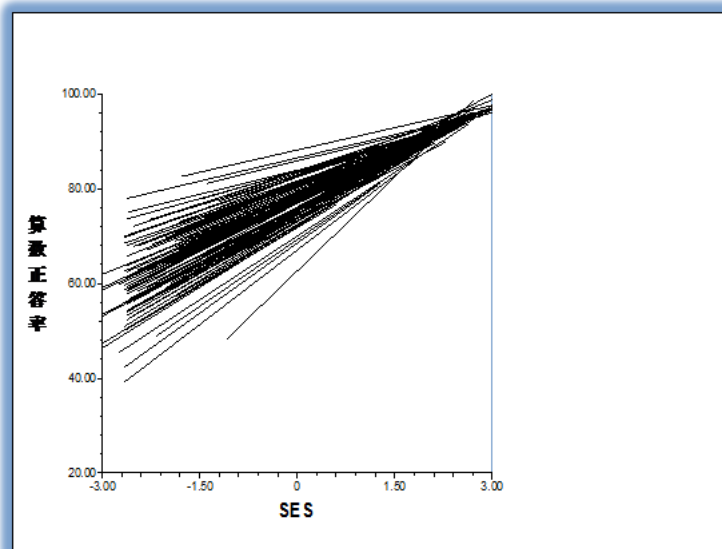
## 2 努力(学習時間)と学力(続き)



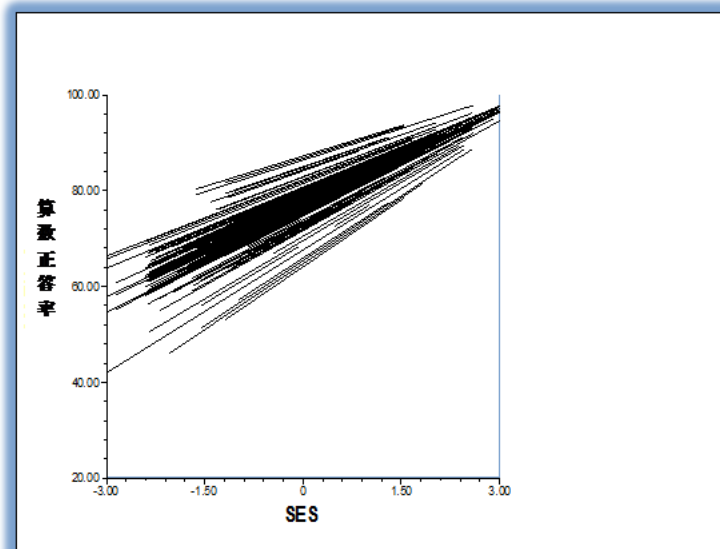
社会経済的背景別学習時間別学力の分布(小6、国語A、箱ひげ図)

- 前シートは平均値に注目した議論であって、箱ひげ図を書いてみると、箱の重なりは大きい。学力は社会経済的背景に規定されつつも、学習時間の長さが高い学力の獲得に対して独立した効果を持っている →第4章 図表4-1-13~20
- SESにかかわらず、宿題をする児童生徒ほど高い学力。社会経済的背景や学習時間とは別に、学習方法が独立して学力に与えるポジティブな効果である。 →第4章 図表4-1-23~24

### 3 SESによる学力格差を抑え込んでいる学校の取組



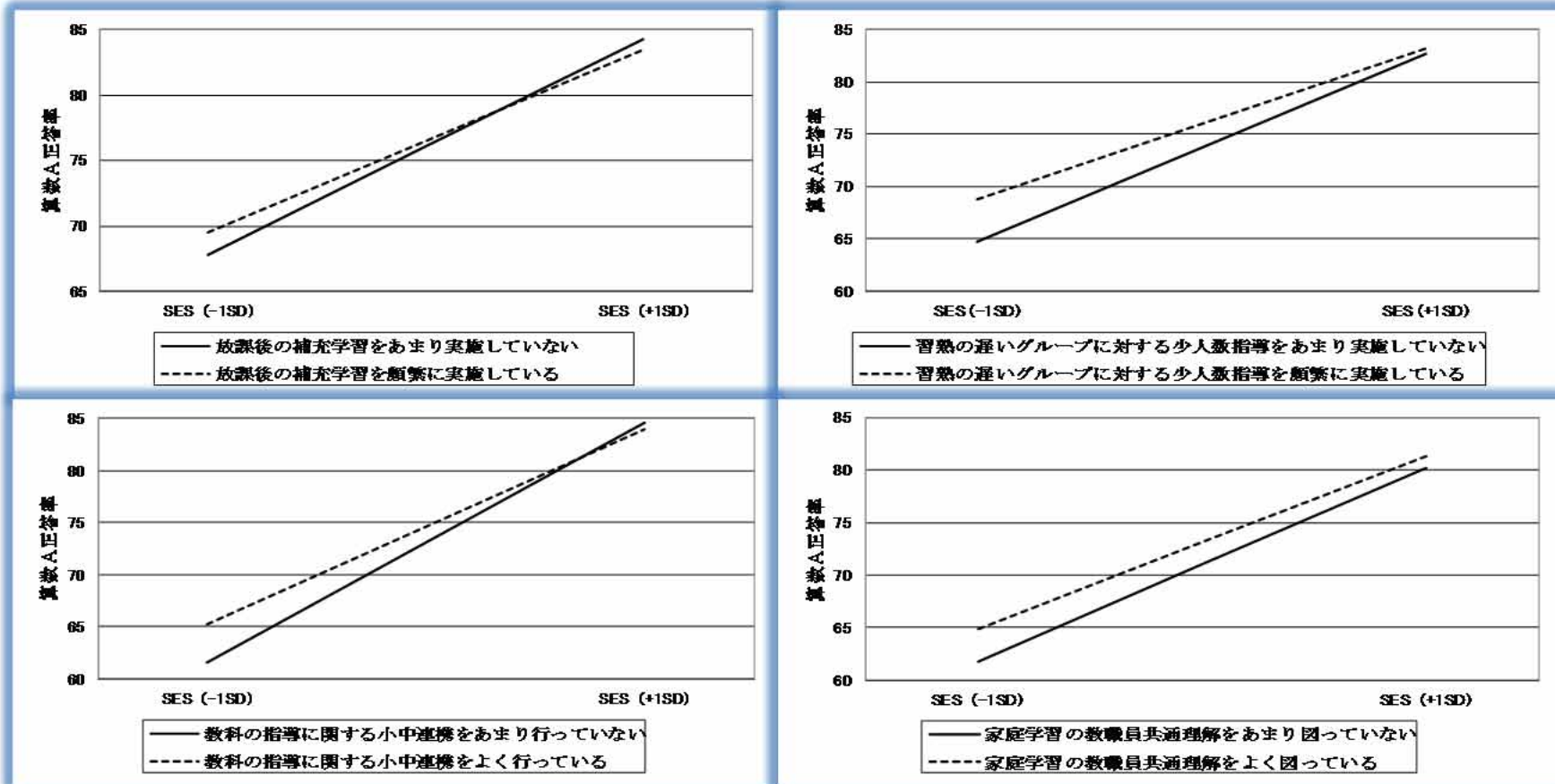
大都市・中核市における家庭の社会経済的背景(SES)による学校内学力格差



その他の市・町村における家庭の社会経済的背景(SES)による学校内学力格差

- 小6データに限定し、学力には算数A問題の正答率を用いた。4つの問題の中で、学校内のSESの傾き(各学校内で生徒の家庭の社会経済的背景が学力に及ぼす影響度)に最もばらつきがあったから →第4章(2)
- 回帰線の傾きがフラットに近いほど、学校内でのSESによる学力格差を抑え込んでいる学校を示す
- 大都市・中核市のほうが、その他の市町村に比べて、傾きの大きな学校が多い

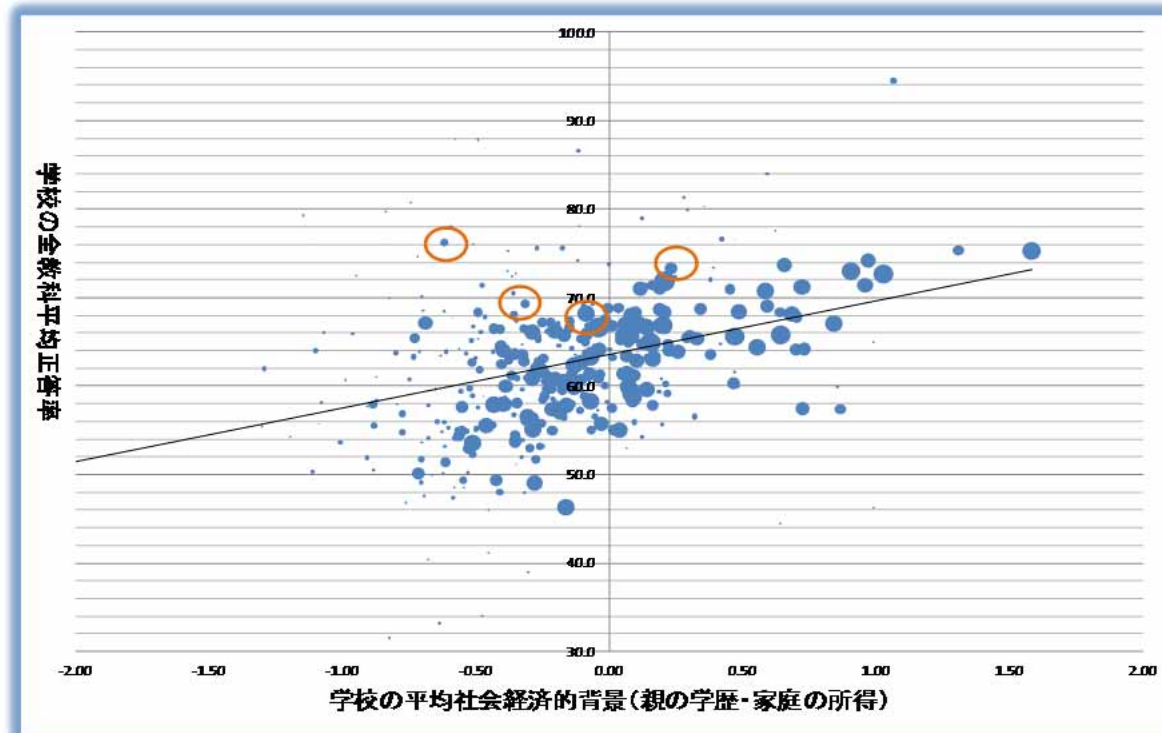
### 3 SESによる学力格差を抑え込んでいる学校の取組(続き)



家庭の社会的背景による学校内学力格差(大都市・中核市、小6、算数A)  
傾きが小さいほど、学校内でのSESによる学力格差を抑え込む取組を示す

→第4章(2) 図表4-2-11~14

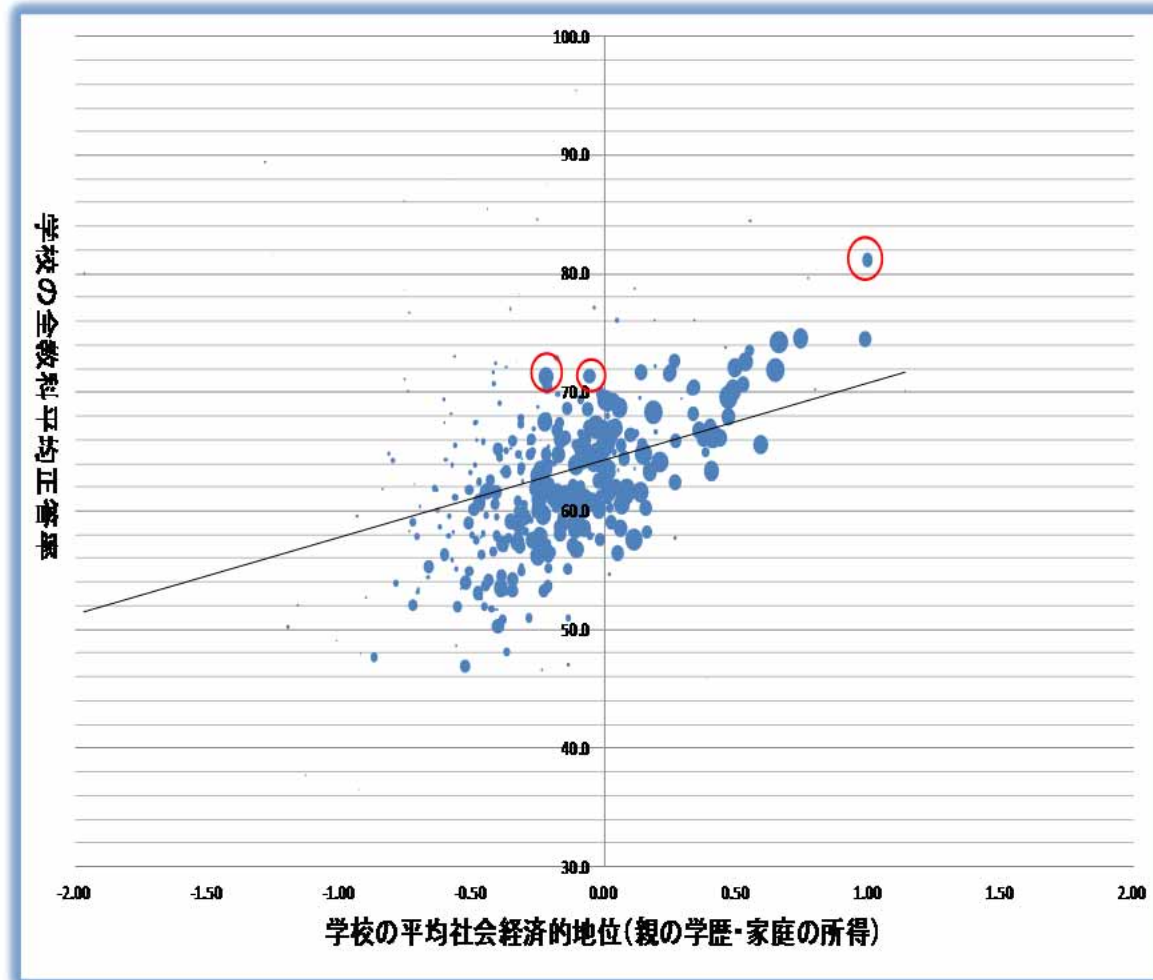
## 4 SESから統計的に予測される学力を上回る「高い成果を上げている学校」の抽出(小学校)



- 「高い成果を上げている学校」とは、同程度の社会経済的背景の児童生徒が通う学校と比較して、学校の(平均)学力が高い学校



## 4 SESから統計的に予測される学力を上回る「高い成果を上げている学校」の抽出(中学校)



学校の平均SESと教科の平均正答率(中学校、数学A、学級数2以上)

• →第6章

赤丸が訪問調査対象校